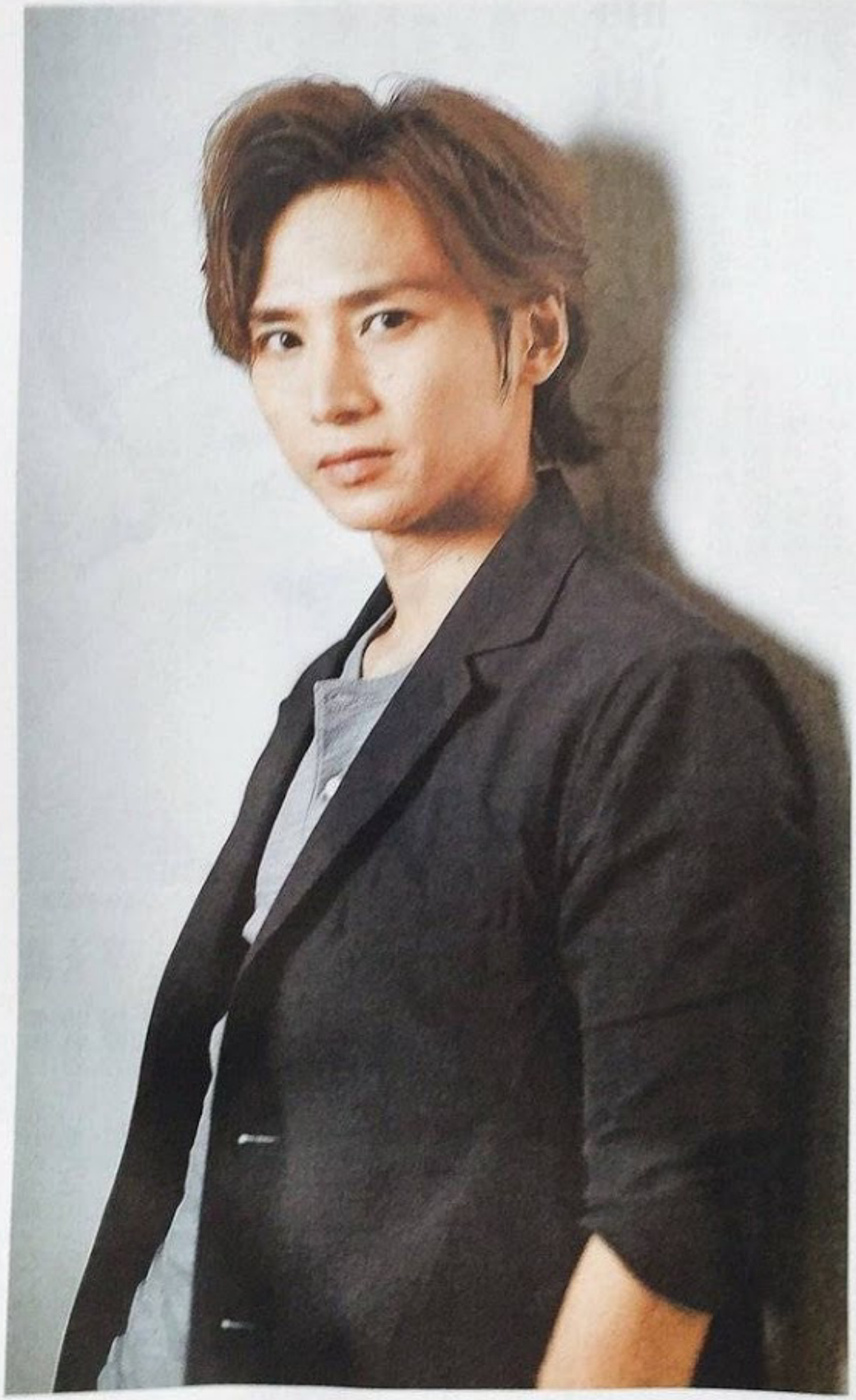
上演1500回 揺るがぬ信念

KISAI 輝才

舞台「Endless SHOCK」主演

堂本 光一（38）



18年にわたって舞台「Endless SHOCK(エンドレス・ショック)」に主演してきた。代役を立てたことは一度もない。上演1500回を達成した今年3月までの道のりを振り返ると、斬った相手は延べ6万人、転がり落ちた階段の段数は3万492段にのぼる。

「1500回やってきた感覚は、あまりない。とにかく、そのときの公演が勝負だっていう風に自分に言い聞かせながらやっている」。自身の内面を探りながら丁寧に言葉を選ぶ姿に、座長としての責任がにじむ。

2000年に「MILLENNIUM SHOCK(ミレニアム・ショック)」というタイトルで初演された。05年から自らも演出に関わり、よりストーリー性を増した「Endless SHOCK」に一新した。ニューヨークの小劇場で、主人公コウイチ（堂本）ら役者たちが夢を追ってぶつかり合い、ショーへの信念を見いだしていく。

いま38歳。「つくり始めたころは、とにかく主人公の正義を描いていたけど、年齢を重ねるとともに、人間の弱さみたいなものが見えてきた」。内容は年々変化し続けている。

約3時間の公演は動きっぱなし。歌とダンス、フライング、22段の階段落ち、15分にも及ぶ殺陣。劇場空間を縦横無尽に駆け巡り、あらゆるエンターテインメントを繰り出す。

02年の稽古中に右脚の靱帯（じんたい）を切る大けがを負ったが、舞台に立ち続けた。15年の公演では本番中にセットが倒れて共演者らがけがをした。「長い公演だと、100%の状態でステージに立てることはまずない。何でも乗り越えられるっていう強い思いがあれば、逆境がエネルギーになる」

「Show must go on（ショーは続けなくてはならない）」。作品のテーマでもあるこの言葉は、堂本自身にも通じる。「誰よりも命を削ろうという心構えでやってる。舞台ってアナログだからこそ、人間のエネルギーがすごく伝わる。そこを大事にしたい」

文・岡田摩子　写真・小林一茂

2年ぶりとなる大阪公演は9月8～30日、梅田芸術劇場（06・6377・3800）。S席1万2500円、A席8千円。一般発売は7月29日。